

新聞を活用し、理解と表現の関連指導を図る

長野県佐久市立野沢小学校 小林 康 宏

序

平成15年度のテーマは「情報を集め、自分の考えを持ち、学習や生活に生かすことのできる子どもたちの育成」であった。

15年度の成果と課題は以下のようにまとめられた。

〔成果〕

- ① 担任（低学年の場合）や児童同士の記事紹介は、子どもたちに新聞をより身近に引き寄せる手立てとして有効であることが分かった。
- ② 新聞記事の書き表し方を理解させることで、記録報告文の構成要素が分かった。

〔課題〕

- ① 学年を追った指導計画がなく、全校を巻き込んだ活動が展開できなかった。
- ② 6紙の新聞を置く場所が全校の目が届く場所になかった。全校児童に日常的に新聞に触れさせることができなかった。

これらを受けて、16年度の研究に向け大きく2つの方向性を設けた。

① 教科の学習に役立てていくための計画的な新聞活用

教科の中で新聞を活用することで「つける力を明確にする」ことを大切にしたい。このことは、まず国語科の時間の中、新聞で学び基礎的な国語力をつけた上で、他教科・総合的な学習の時間に発展していくことで子ども達の力の高まりが期待される。

その際、新聞の読み方を学ぶ＝「読むこと」にとどまるのではなく、「書くこと」「話すこと・聞くこと」との関連的な学習を行うことで、新聞を活用して総合的な国語力を高めることができる。また、そのように理解と表現とを学ぶことが他教科・総合的な学習への可能性をより広げることになる。

同時に求められるものが、「学年の発達段階や学習段階への対応」である。この点については、「各学年に応じたNIEカリキュラムの作成」により解決を図ることができる。

② 日常的に児童が新聞記事に親しめるような環境作り

新聞コーナーの設置場所を児童が数多く通行するところに設けること、前日以前の新聞の置き方について工夫すること、全校が接する、新聞を用いた日常活動を展開する事などが考えられる。これらのことにより児童が新聞に親しみ、①で挙げた能力の向上につながると思われる。

そこで、平成16年度のNIE推進テーマとして「新聞を活用し、理解と表現の関連指導を図る」を掲げる。

尚、〔成果〕として挙げた2点については、各学年での指導・及び環境整備の手立てとして活用するものとする。

1. はじめに

沢山の情報にさらされている子どもたちにとって、

- ① 情報を読み取る技術
- ② 情報を相対化する意識
- ③ 情報に対する自らの考えの構築
- ④ 調べたこと・考えたことの発信

といった情報活用能力は必須の能力だと言える。

さて、マス・メディアとしての情報は、テレビに代表される視聴覚メディア、ラジオに代表される音声メディア、新聞に代表される活字メディアに大別される。

この中で、新聞は他のメディアに比較して情報が活字に記録され、後に残るという特性がある。このため、ひとつの情報を繰り返し読むことや関連した情報を探ることが他のメディアと比較して容易にでき、学校で情報活用の力をつけていくためには優れている。

さて、上に挙げた4つの能力はどの教科で身につけることができるであろうか。社会科、総合的な学習の時間等様々な教科でつけることができそうであるが、根本的には国語科で身につけるべきものであろう。

そこで、新聞を活用して、国語科で学習者に身に付けさせることのできる可能性を探った。

2. 国語科の学習指導要領と新聞との関連

平成14年度版、国語科の学習指導要領の内容から、新聞を活用して付けられる力として以下が挙げられる。(下線 新聞活用関連部分)

〔A 話すこと・聞くこと〕

1、2年

ア 知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと。

3、4年

ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように道筋を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

5、6年

ア 考えたことや自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

〔B 書くこと〕

1、2年

イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。

3、4年

イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。

エ 書こうとする事の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書くこと。

5、6年

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

〔C 読むこと〕

1、2年

イ 時間的な順序、事柄の順序など考えながら内容の大体を読むこと。

3、4年

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。

5、6年

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。

オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

3. 新聞を活用して、3領域の関連を図る

上に挙げた内容を実現していくには、以下のような単元の基本的な流れが考えられる。

- ① 各自が、発表したい課題をもつ。
- ② 新聞を読み、情報の書かれ方を知る。(読む)
- ③ 自分の課題を解決したものをまとめる。(書く)
- ④ 発表する。(話す)

この一連の活動により、読む、書く、話す力を連続的に身に付けていくことができる。

また、この基本的な流れの中で、

- ① 情報を読み取る技術
- ② 情報を相対化する意識
- ③ 情報に対する自らの考えの構築
- ④ 調べたこと・考えたことの発信

のそれぞれを、身につけることができる。

それらは、発達段階に応じた目標を掲げ、学習することにより、段階的に力をつけることができる。

4. 学年の発達段階と新聞を活用した学習の関連

新聞を活用した学習では、学習者の関心・意欲を高めることが基礎である。なぜならば、学年に応じて作られている教科書と違い、新聞は大人向けに書かれている。そこから、新聞は難しいと学習者が思うと追究への意欲が乏しくなるからである。このことを加味した学年に応じたNIEの目標と、活動内容について以下挙げる。

学年	目 標	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
1, 2	新聞に親しみを持つ。 事柄の順序性を身につける。 ① 情報を読み取る技術 ② 調べたこと・考えたこと の発信	4コマ漫画新聞を友達 に見せながらゆっくり、 はっきり、大きな声で 発表する。 (CS Aア)	自分の身近な出来事を 4コマ漫画新聞にする。 (CS Bイ)	4コマ漫画を並べ替え ることで、事柄の順序 性、起承転結を知る。 (CS Cイ)

学年	目 標	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
3, 4	新聞に親しみを持つ。 中心と、段落のつながり関係を身につける。 ① 情報を読み取る技術 ② 情報に対する自分の考えの構築 ③ 調べたこと・考えたことの発信	はじめ・なか・終わり・まとめの構成で、スピーチを行なう。 中心をタイトルとして述べる。 (CS Aア)	5w1hの構成で文章を書く。 述べたい中心を見出し、リード文にあげ、はじめ・なか・終わりの構成で記事を書く。 新聞から面白い言葉を抜き出し、並べて詩を作る。 (CS Bイエ)	5w1hの内容を掴む。 見出し、リード文を活用し、述べたい中心と説明の関係を知る。 社説からはじめ・なか・終わりの構成を知り、それに対する自分の考えを持つ。 (CS Cイオ)
5, 6	自分の考えを持ち、効果的な構成を身につける。 ① 情報を読み取る技術 ② 情報を相対化する意識 ③ 調べたこと・考えたことの発信	事例と自分の考えを述べる構成の整ったプレゼンテーションを行なう。 (CS Aア)	ひとつの事象について、複数で記事を書き、とらえ方の違いを認識する。 キーワードや、要点を書く位置に留意して、自分の主張の入った記事を書く。 (CS B イエ)	同一の素材を扱った複数の新聞の記事を読み比べる。 コラムを読み、事実と意見を区別し、感想を持つ。 トップ記事をキーワード法や要点の書かれている位置に注目して解読する。 大切なことから先に述べる新聞記事の書き方と、はじめ・なか・おわりの構成で書く社説の書き方の違いと効果を知る。 (CS Cイエオ)

5. 環境設定

昨年度残されたもうひとつの課題「日常的に児童が新聞記事に親しめるような環境作り」についての対応を以下の通りとする。

- (1) 「全校が接する新聞を用いた日常活動」として、放送委員が毎朝の放送で「私が選んだ今日のニュース」として新聞を紹介する。この際、感想も付け加える。
- (2) 「新聞コーナーの設置場所を児童が数多く通行するところに設けること」として、その日に配達された新聞は、学校で一番往来のある中央廊下に置く。
- (3) 「前日以前の新聞の置き方について工夫すること」として、以下2段階設ける。
 - ① 当該月の新聞は、図書館に新聞コーナーを設置し、そこに置く。
 - ② 当該月以前の新聞は、月ごとにまとめて児童・職員が閲覧しやすい場所の廊下に置く。

6. 推進の具体

(1) 学年の活動

5～7月 各学年ごとに計画立案 9～2月 各学年ごとに実施 3月 実践の発表

(2) 学校全体として

5で述べたことの他に以下のことを行う。

- ① 係から新聞を使った活動（NIE関連の書籍・他校の事例）を紹介する。

※ 各学級での活動推進の参考にする。

7. 結果

年間計画に基づいた各学年の活動

- (1) 新聞に親しみを持つことができるようになった事例 1年生
（「情報を読み取る技術」「調べた事・考えたことの発信」にふれて）

1年生は、「吹き出しを考えよう」の単元で以下の活動をした。

- ① 信濃毎日新聞掲載4コマ漫画「あんずちゃん」を休み時間に読む。
- ② 「かんがえるかえるくん」の挿絵の登場人物の会話を想像する。
- ③ 「かんがえるかえるくん」作品中の4コマ漫画に吹き出しを入れる。
- ④ 4コマ漫画を制作する。
- ⑤ 発表し合う。

子ども達は、この活動で挿絵の吹き出しを考える際に、場面の状況を把握することが大切であることを学んだ。

また、考えたことを順序立てて表現するのに4コマ漫画の形式を取ることが効果的であることが分かった。

更に、それらの土壌を耕す意味で、日常的に4コマ漫画に接していることは意味があった。



- (2) 文章の順序を学んだ事例 2年生
（「情報を読み取る技術」「調べた事・考えたことの発信」にふれて）

2年生は、「4コマ漫画新聞を書こう」の単元で以下の活動をした。



- ① 2学期から、廊下に新聞の4コマ漫画を展示し、児童の興味付けを図る。
- ② バラバラにした4コマ漫画をストーリーを考え並べ替える。
- ③ お互いに作ったものを発表し合う。

子ども達はこの活動の中で、物語の展開の基本形である「起承転結」を知ることができた。更に、自分で起承転結を意識し、ストーリーを考え4コマ漫画を作り発表し合うことで、「読み」の力を基にして「書く」力をつけることができた。

- (3) 新聞に親しみを持つことができるようになった事例 3年生
（「情報を読み取る技術」「情報に対する自分の考えの構築」にふれて）

3年生は、家庭で取っている新聞を持ち寄り以下の活動をした。

- ① 持ち寄った新聞の1面を比較、気付いたことを発表し合う。
- ② 朝の会で、興味を持った新聞の切り抜きを読み、自分の考えを発表する。
- ③ 持ち寄った記事の展示。
- ④ 展示された記事を見たり、発表を聞いたりして、思ったことを発表する。



子ども達は、この活動の中で、新聞の発表をする際には、記事を選んだ理由を述べることを通して情報に対する自らの考えを自問していった。

そして、子ども達は、お互いの発表をとっても興味を持ち聞き合っていた。

その結果、子ども達は以下のようなことを発見した。

- ・新聞には天気を書いてある。ページがある。題が幾つかある。コラムがある。第〇号と書いてある。
- ・真ん中の大きい記事は新聞により違う。

(4) 中心と段落関係を身につけていった事例 4年生

(「調べたこと・考えたことの発信」にふれて)

4年生は、「新聞記者になろう」の単元で以下の活動をした。

- ① 家庭で読んでいる新聞を持ち寄り、気付いたことを話し合う。
- ② 構成・内容の工夫について理解する。
- ③ 「新聞記者になろう」(平成14年度版光村国語4下)を読み、学習計画を立てる。
- ④ グループで、どんな新聞にするか考える。
- ⑤ 記事を書く分担を決める。
- ⑥ 分担した内容を取材する。
- ⑦ 記事を下書きする。
- ⑧ 割付をする。
- ⑨ 写真・絵を入れて清書する。
- ⑩ お互いに見合う。



この活動を通して子ども達は以下のようなことを学び取ることができた。

- ① 新聞を学習材にして、構成・内容を学習したことで、自分たちが新聞を制作する際の具体的なイメージをつかむことができた。
- ② 具体的な事例の部分に関しては、取材・アンケート調査を行い、その結果を記事に書き、事実の調べ方・述べ方について学ぶことができた。
- ③ 意欲に関して、単元が終わった後、新聞作りに興味を持った子ども達が新聞係を作り、月1、2回新聞を書いて掲示するようになった。それをクラスの子ども達が楽しんで読んでいる姿が見られる。

(5) 目的に合わせ、情報を収集した事例 6年生

(「情報を読み取る技術」にふれて)

6年生は、国語「平和のとりでを築く」(光村6下)の中で、以下の活動をした。

- ① 「平和のとりでを築く」から原爆ドームに関する情報を読み取りまとめる。
- ② 戦争・平和に関する記事や紛争の状況について掲載されている記事を探し、集め、ま



まとめる。

③ 作文・ポスター・新聞などツールを選んで発表する。
この活動を通して、子ども達は以下のようなことを学び取ることができた。

- ① 焦点を絞り、情報を探することで、自分の必要な情報を獲得するための主体的な態度が持てた。
- ② 新聞を情報源として、戦争・平和に関する情報を探することで、現在の国際状況についての知識を得ることができた。

(6) 自分の考えを持ち、効果的な構成を

身につけていった事例 5年生

(「情報を相対化する意識」「調べたこと・考えたことの発信」にふれて)

5年生は、国語、「1年生との交流の思い出をまとめよう」(15時間扱い)の単元を組み、自作の新聞を制作する活動を行う中、情報の相対化と、分かりやすく、自分らしく発信する学習を行った。

① 単元の目標

ア 事象には様々な見方があることを知り、自分の見方・考え方に自信を持ち、進んで表現しようとする態度を持てる。

イ 1年間の1年生との交流の様子を分かりやすいように、かつ自分らしくまとめることができる。

② 主な手立て

アに対して ・複数の新聞で、同一の素材を扱った記事を読み比べる。

・友達同士が書いた新聞で同一の行事を扱った記事を読み比べる。

イに対して ・教科書、新聞を読み、見出し・リード文・本文のそれぞれの特性を知る。

・新聞社の方から、構成についての疑問に答えていただく。

③ 単元展開

時間	学習内容	ねらい
1	1年生との1年間の思い出を壁新聞にまとめる課題を持ち、1つ記事を書いてみる。問題点を出し合う。	活動への意欲付け。課題を持つ。
2	「ニュースを伝える」を読む。	テキストの内容をつかむ。
3	新聞の本文の構成を学習する。	逆三角型、5W1Hの構成の理解
4	新聞の本文の見出し、リード文のつけ方を学習する。	要約の方法の理解
5	同じ写真で違う記事・リード文・見出しになっている記事を読む。	事実を照射する考え方の違いを知る。
6	同じ題材で、異なった視点から見た記事・リード文・見出しを結びつけ、それに合った写真を見つける。	事実を照射する方法の違いを知る。 効果的な資料の活用法を知る。
7	新聞記者の方に、新聞記事を書くときに見出し・リード・本文の文章構成はどのように書いて、資料はどのようなものを添付するか、記事を書くときに気をつけることは何か、記事にどんな思いを込めているか聞く。	

時間	学習内容	ねらい
8	記事を4つ選択し、5W1Hで内容メモを作る。	書きたいことを整理する。
9	必要な写真の選択	記事にあわせた効果的な資料の選択。
10	割付	見やすい新聞のイメージを作る。
11、12	下書き	実践化。
13	清書	見やすくするための工夫を行う。
14	発表練習	発表の方法を知り、実践する。
15	参観日で発表会	情報の共有化

④ 情報を相対化し、人にはそれぞれ色々な見方があることを自覚し、自分の見方・考え方を広げていった例

【第5時】

12/14付けの読賣・朝日・信濃毎日新聞に掲載されていた「今年の漢字」の記事を取り上げた。3紙とも、ほぼ同じ写真を使用していた。

しかし、当然3紙とも見出し・本文の記述は異なる。そこで、同じ事象を見ても、記者により見方が異なることを学習した。学習過程は以下のように行った。

ア 3社の写真を配布する。

イ それぞれの見出しを読ませる。

読賣：台風、地震…色々ありました

朝日：「転じて福」祈る

信毎：今年の漢字「災」地震や台風 被害を反映

ウ 気付いたことを発表させる。

活動後、子ども達からは、以下のように気付いたことが挙げられた。

- ・見出しに書いてあることや、本文に書いてあることが違うと感じ方が違う。
- ・写真は同じような感じでも、見出しの言葉は違う。
- ・記者が違うと、記事が違ってくる。



信濃毎日



朝日



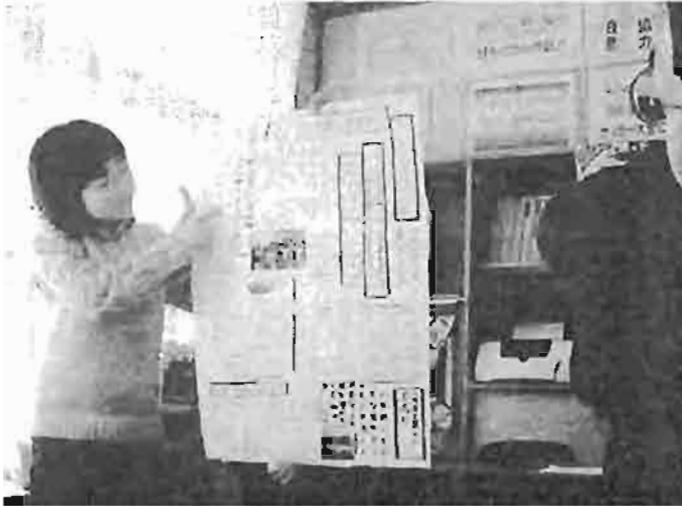
読賣

【第15時】

自作の新聞の発表会を以下のように行った。

ア グループになり、ひとり4分の発表時間、感想記入2分。感想発表1分で順番に行く。

イ 単元全体の感想を書く。



・見方の拡大が生まれた事例

…自分と同一の行事について書いた友達の新聞を読み比べたことから、B児は、第15時終末で、自分と同一の行事について書いた友達の記事を読み、「同じことから考えたことなのに、みんな違ってびっくりした。」と述べている。

同じように、「同じことから記事を作っても見出しや本文は人によって考えが違う」といった認識は大勢の児童が感じていた。

・見方を広げたり、意欲の高まりが生まれた事例

C児は、「新聞を作るのは大変だったけど、またやってみたいと思った。」と述べている。加えて構成の面からD児は、「新聞作りはそんなにやったことなかったけど、見出しなどの作り方を勉強すると書きやすかった。」と述べている。

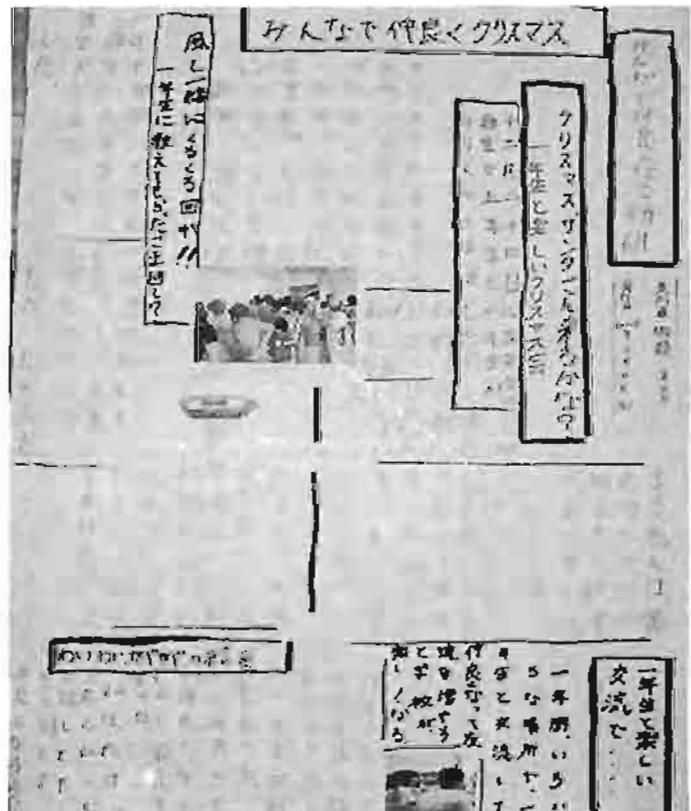
また、E児は「新聞の作り方がよく分かったので、新聞がもっと読みたくなりました。」と述べ、読みと書きの往復による見方の拡大も感じられる。

⑤ 分かりやすく、自分らしい表現

を身につけていった事例

F児が第1時に書いた記事を挙げる。

1年生とクリスマス会
 楽しかったクリスマス会
 5年生と1年生でクリスマス会をした。
 最初はビンゴでけいひんのおりがみをも
 らった人でいやそうな人やうれしそうな
 人がいた。
 次はマジックで5年生のマジシャン、マ
 ジシャンガールのマジックを見て、1年
 生はおどろいたり、よろこんだりしてい
 てとても楽しそうだった。
 時間がなかったので「あわてんぼうのサ
 ンタクロース」を1年生と歌った。



続いてF児の清書した新聞を挙げる。

第7時に、信濃毎日新聞佐久支社小林氏に来校していただき、これまで挙がっていた疑問について話していただいた。

- ① 見出しの分量と内容
- ② リード文の分量と内容
- ③ 本文の分量
- ④ 見やすい文字の大きさ
- ⑤ 効果的な資料
- ⑥ 記者は記事をどう思って新聞に書いているか。

この活動の後で、見出し・リード文・本文の構成について以下のようにまとめた。



【見出し】

- ・見出しの分量…見出しの大きさは決まっている。トップニュースは5段分。ひとつの記事には見出し2本が原則。主見出しは8～9字。わき見出しは11字
- ・見出しをつけるポイント
エッとさせるような見出しにする。

【リード文】

- ・リード文の内容…おおざっぱな要約。リード文を読めばだいたい意味がわかるもの。短い方が良い。読みたいと思わせるように書く。
- ・リード文の分量…10行～11行。短い方が良い。

【本文】

- ・できごとのあらましを簡単に書くのがリード文。本文は、枝葉を伸ばすように書いていく。

リード文と本文でどのように文章を書き分けるかがポイントである。分かりやすさを事柄のあらましを端的に述べることと捉え、リード文で述べることとした。また、自分らしく詳しく書くことを本文の役割とした。5W1Hのうち、詳しく書けることは、なぜ(WHY)、どのように(HOW)の部分である(勿論、子ども達の書きたい中心により、詳しく書くべきポイントが時間であったり、人物であったり、場所であったりする場合もあろう。今回の実践の場合は、特に「どのように」の部分を詳しく述べる課題を持つことにより、会話・音・表情などの様子を書き込むことができるという性質を持っているため、上述のように指導した)。

F児は、最初作成した新聞では本文において全体的なことを述べ、読者に淡白な印象を与えるものとなっている。しかし、清書したものでは、「どのように」の部分をも自分と相手との関係で述べ、会話・表情・色彩等を使い、生き生きとした個性的な文体となっている。

⑤ ついた力

以上のことから、この実践では以下の2点を結論付けたい。

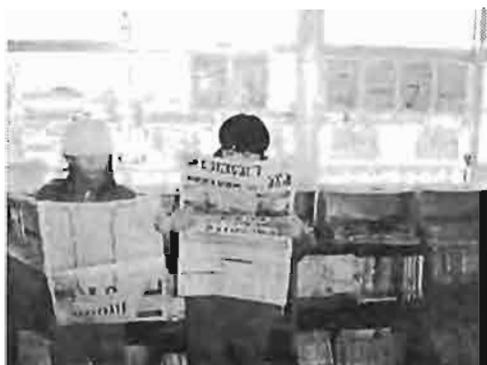
- (1) 見出しで要点をコンパクトに述べ、また、読者をひきつける、リードで事柄の骨格を述



③ 前日以前の新聞の置き方について工夫することとして、以下2段階設けた。

ア 当該月の新聞は、図書館に新聞コーナーを設置し置く。

図書館に来館した児童の中には休み時間に興味のある記事を読む姿も見られた。



イ 当該月以前の新聞は、月ごとにまとめて児童・職員が閲覧しやすい場所の廊下に置く。



バックナンバーを授業で活用するときに見つけやすかった。

8. 考 察

(1) 教科の学習に役立てていくための計画的な新聞活用に関して

① 教科を国語科に絞ることで、NIEで何を学ばせるかが学校全体としての方向を明確にすることができた。

② 各学年でつけたい力と学習内容をはっきりさせたことで、無理なく単元化し、無理なく力をつけることができた。

③ 理解⇔表現の関連的指導を組むことで、子ども達につけたい力を段階的に重ねることができた。

④ 年間計画を縦に系統化することで、新聞を活用して段階的に国語の力をつける見通しが立った。

⑤ 基本的な単元の構造を示したが、教科書教材等、NIEにとってみればサブ・テキストを併用して学習することで、子どもにつけたい力が更に焦点化されることが分かった。

(2) 日常的に児童が新聞記事に親しめるような環境作りに関して

① 新聞に日常的にふれることは、一般社会と日常的に触れることに他ならない。このことで、確実に子ども達の視野の拡大につながったと思われる。

9. おわりに

① 対象教科を絞り、指導内容を焦点化することと、テキストを理解し、表現する往復的・連続的な学習活動の中で確実に国語の力をつけることができた。

② 今求められている、文章・資料を読み、自らの考えを構築し、それを達意の文章として表現する力の育成のためには6年で行った活動を更に深化させ、各学年に広めていく必要がある。